

【 平成 27 年度からの新スローガン 】

“ひとり 1 スポーツ スポーツマンのところで競技力 UP!!”

【 基本方針 】

本連盟はこれまで、行政および関係機関・団体などからのサポートを受けながら、“広げよう スポーツの輪 高めよう競技力”のスローガンのもと、各団体・会員と協力して“スポーツの町 養老”にふさわしい活動を行ってまいりました。そして、養老町民へのスポーツ振興、健康づくりにも大いに貢献してきております。

平成 24 年 10 月に公益財団法人に移行いたしました。その後、町の補助金規定の見直し、社会における行政に頼らないスポーツ団体運営の気運、経済情勢などの様々な変化がおこる中、本連盟もスポーツ推進の基本的な進め方、組織のあり方を再検討し、再出発することが必要となってまいりました。

平成 28 年度からは本連盟への町からの事務局長・次長の派遣および事務職員の給与助成は完全になくなり、同年度から総合体育館指定管理を受託し、事務業務の一体的な改善を行う必要があります。また、現在受けている補助金が今後とも引き続き支給される保証はなく、今後とも競技団体およびスポーツ少年団へのサポートを継続するために、委託事業および補助金事業に関して“スポーツの町宣言”を行っている町にふさわしい内容となるよう行政ときちんと交渉するとともに、民間の団体及び個人サポーターの獲得などによる補助金のみに頼らない組織運営を行う必要があります。

また、スポーツ少年団および競技スポーツの町民への更なる普及をめざして、中長期計画を立て、実践していくことも重要となります。

【 主な取り組み 】

1. 組織の自立と改変、指定管理受託

(1) 役割の検討

行政の役割、養老町スポーツ連盟の役割、競技団体・スポーツ少年団の役割の検討

(2) 指定管理と事務業務改善

総合体育館指定管理者の受託準備と事務局機能の確立、体育館業務と事務業務の連携および改善

(3) 情報の整理と共有

定款・規則などの確認、会議記録・必要情報のまとめ、競技団体・スポーツ少年団などの情報共有・情報交換のシステムの構築、事務業務の効率化

(4) 安定的運営

行政からの適切なサポートの検討、委託事業・補助事業の検討、サポーターの継続的獲得、各競技団体などの登録料、補助金の原則検討、事業の黒字化

2. ひとり1スポーツ スポーツマンの心で競技力UP!! の実現

(1) スポーツリーダーバンクの創設

現在のスポーツ指導者資格保持者のデータベース策定、事業の概要決定、学校・地域との協力関係の確立、リーダー研修の確立、派遣の実務の検討

(2) 地域スポーツクラブの創設

バルシューレなどを中心とした地域スポーツクラブの創設、広幡地区で開始

3. スポーツ障害・外傷予防

スポーツ少年団メディカルチェック・中学校野球部肘検診、運動器パスポートの普及

4. 日独交流事業への積極的関与

スポーツ派遣時の団長選定と指導者の積極的参加、受け入れ時の積極的交流

5. 中長期計画と工程表の策定

夢の設定と共有、養老町スポーツ推進10年計画の具体化の検討

6. 2017年1300年祭の活用

将来のスポーツ発展の礎となる事業